

進行胃がんを対象とした個人データに基づくネットワークメタアナリシス

胃がんは日本において大腸癌に次いで罹患数が多いがんであり（大腸を直腸と結腸に分けた場合、最多）、男性では最多の罹患数である。今日発見される胃がんの半数は早期がんであり、切除手術以外にも内視鏡的切除など様々な低侵襲治療法の開発が進んでいる。

一方、切除不能進行・再発胃がんに対して第一に考慮されるべきは化学療法であり、一次化学療法として推奨されるレジメンは数パターンあるが、どれも S-1、5-FU、Capecitabine のいずれかを含んでいる。

また、現在 GASTIRC と呼ばれる国際プロジェクトが実施されており、胃がん患者に化学療法を施した RCT の試験結果・個人データについて収集されている。

そこで、GASTRIC で収集された個人データを元に、ネットワークメタアナリシスと呼ばれる解析方法を用いて、S-1、5-FU、Capecitabine 間の非劣勢を検討したいと考えている。

今回の発表では胃がんと GASTRIC プロジェクト、ネットワークメタアナリシスの概要について紹介し、今後の方針を述べる。